

令和 2 年度事業報告

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(8)
7. 国際学術交流委員会	(13)
8. 評議員選出委員会	(14)
9. 保険委員会	(14)
10. 倫理委員会	(15)
11. 腎不全総合対策委員会	(15)
12. 危機管理委員会	(16)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(17)
14. 男女共同参画推進委員会	(17)
15. 感染対策委員会	(18)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(19)
(2) 監事	(19)
(3) 評議員	(20)
(4) 退任した役員等	(25)
(5) 役員等の報酬等	(25)

② 会員に関する事項	(26)
------------	------

③ 職員に関する事項	(26)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(26)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(30)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(30)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(31)
------------------------------	------

2. その他の記載事項	(32)
-------------	------

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 65 回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学・腎臓病内科学 教授 稲葉雅章会長が主宰し、2020 年 11 月 2 日（月）～ 24 日（火）の間、WEB 開催した。

（※ 2020 年 11 月 2 日（月）～ 3 日（火・祝日）に一部プログラム LIVE 配信した。）

今回のテーマは「人生 100 年時代を迎えた透析患者の健康寿命延伸に向けて」を掲げて開催し、参加者は 12,138 名であった。

<会長講演>

「透析患者の高齢化に伴う健康寿命の延伸を目指して」

<特別講演>

「CKD 合併症との闘い：歴史と展望」, 「代謝学から考える慢性腎不全・透析医療～糖代謝異常における課題と検証～」

<招請講演>

「超高齢社会の高齢者透析医療を考える」, 「脂肪由来善玉因子・アディポネクチンの臓器保護作用について」, 「Dysbiosis 関連疾患に対する革新的な治療法の創出」, 「「いのち」へのまなざし～死生学の視点から～」, 「産官学連携コンソーシアムによる iPS 細胞を用いた腎臓再生法開発」, 「医療イノベーション創出におけるアカデミアの役割」, 「脳内ストレスからみた慢性腎臓病, 末期腎不全, 生活習慣病～人生 100 年時代の健康寿命延伸に向けて～」, 「町工場から宇宙へ・宇宙から医療へ」

<教育講演>

「透析患者のケア—導入時の注意点」, 「骨所見に基づいた腎性骨症の治療」, 「透析室における安全対策」, 「腎生検にて確認された透析導入原疾患の解析」, 「骨作動薬」, 「透析患者における微量元素と各種病態」, 「透析患者の栄養管理」, 「透析患者の治療—重症下肢虚血」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—認知機能と睡眠障害」, 「透析患者の治療—感染症」, 「透析医療現場での災害対策」, 「医療安全の基本と国際的潮流について」, 「サルコペニア・フレイルを合併した保存期 CKD の食事療法」, 「透析患者におけるサルコペニアの実態と治療」, 「HDF の原理から実践」, 「透析患者の治療—種々の modality の長所と欠点」, 「海外との比較も含めた統計調査からみる日本の透析医療」, 「高齢女性の下部尿路症状」, 「フットケア」, 「骨代謝と骨折」, 「透析患者の貧血治療」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—腹膜透析」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—冠動脈疾患」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—脂質管理」, 「透析患者の血圧管理（血圧低下も含めて）」, 「透析患者の心不全を考える」, 「透析患者の治療—脳卒中 up to date」, 「腎移植最前線～適応拡大, 長期成績向上に向けた strategy」, 「様々な透析療法」, 「リンコントロール～無機リンを見つけるために～」, 「糖尿病性腎臓病（DKD）進展の尿中バイオマーカーと DKD 透析患者の管理」, 「慢性腎臓病と糖尿病性腎臓病：病態と最新治療」, 「透析廃液管理について」, 「透析液組成」, 「臨床研究をやってみよう 臨床研究法下における臨床試験の推進のために」, 「私が行ってきたバスキュラーアクセス管理」, 「古くて新しい問題 透析液カリウム濃度を考える」, 「透析患者の病態を診る—QOL」, 「透析患者の皮膚病変, 掻痒症, むずむず脚症候群」, 「透析患者の治療の歴史」, 「AKI・急性血液浄化」, 「リアルワールド臨床研究データ解析と研究デザイン」, 「透析患者における口腔ケア・嚥下障害」, 「労働環境の改善を目指して」, 「コメディカルのための臨床研究入門」, 「患者安全～標準医療事故調査手法について～」, 「透析を円滑に行うための多職種連携」

<合同シンポジウム>

日本老年医学会・日本透析医学会合同企画：「透析療法におけるサルコペニア・フレイルの意義を考える」,
透析運動療法研究会・日本透析医学会合同企画：「透析患者の運動療法を具体的にどう進めるか」,
日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会合同企画：「こうすればうまくいく 透析患者の薬物治療管理法」,
日本腎臓学会・日本透析医学会合同企画：「保存期から透析導入へのスムーズな transition のために」,
日本睡眠学会・日本透析医学会合同企画：「慢性腎臓病・透析患者の睡眠障害：QOL 改善にはどう立ち向かうか?」,
日本腹膜透析医学会・日本透析医学会合同企画：「腹膜透析療法ガイドラインと実際・今後の展望」,
日本痛風・尿酸核酸学会・日本透析医学会合同企画：「尿酸代謝の最前線」,
日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会合同企画：「透析患者における運動器障害と骨粗鬆症薬物治療」,
日本腎臓リハビリテーション学会・日本透析医学会合同企画：「透析患者でのリハビリテーション運動療法の意義」,
日本心血管インターベンション治療学会・日本透析医学会合同企画：「透析患者の心血管イベントへの介入治療戦略」

<シンポジウム>

「透析患者の糖尿病に対する薬物治療」, 「バスキュラーアクセス管理と治療におけるエコーの活用」, 「透析患者の難治性病態の Up to date」, 「新しい血液浄化モダリティ 人生 100 年時代に向けての展望」, 「高齢者透析患者に対する臨床工学技士の役割」, 「透析患者の脳と認知機能」, 「透析患者における末梢動脈疾患～予防・早期発見の重要性と治療課題」, 「透析患者の低栄養対策」, 「透析医療における働き方改革とタスクシフティング」, 「バスキュラーアクセス(PTA)(安全・確実な VAIVT をめざして)」, 「CKD-MBD KDIGO と日本のガイドラインについて：未来の改訂に向けて Developing Future CKD-MBD Guideline」, 「High Impact Clinical Trials」, 「腎不全看護に必要な多職種連携の意義と成果」, 「腎性貧血治療の新たな治療：HIF-PH 阻害薬 New therapy against anemia in CKD：HIF-PH inhibitor」, 「透析患者における血管石灰化の診断と防止の意義」, 「アジアの透析事情と日本からの援助活動」, 「医療経済性から慢性腎不全医療の未来を考える」, 「透析患者のこころの診かた～多職種で考えるサイコネフロロジー～」

<ワークショップ>

「Fabry 病の透析医療を含む診断と治療の upDate」, 「多発性嚢胞腎 (ADPKD) 透析患者にどのように向き合うか」, 「慢性腎臓病・腎代替療法における多施設・多職種連携」, 「CKD-MBD の展望 Future perspective on CKD-MBD」, 「透析医・腎臓内科医に知ってもらいたい腎移植」, 「サルコペニア対策を目指した栄養サポートの実践」, 「血圧異常 (高血圧・低血圧) の管理の実際」, 「糖尿病透析患者の血糖管理指標～グリコアルブミン (GA) を再考する～」, 「腎不全看護に関連する資格制度とその実践」, 「長時間透析」, 「新時代を迎えた慢性腎臓病に伴う貧血管理」, 「最新技術の透析患者への応用と糖尿病管理の実際」, 「バスキュラーアクセス」, 「人生 100 年時代における PD の利点を再考する」

<学会・委員会企画>

腎不全総合対策委員会：「高齢者腎不全医療の現在と未来」, 保険委員会：「新たな診療報酬改定が透析医療に及ぼす影響」, 国際学術交流委員会・統計調査委員会：「Epidemiological aspect of Frailty in dialysis population —Present and Future—」, 男女共同参画推進委員会：「TSUBASA PROJECT —透析と GENDER—」, 専門医制度委員会：「専門医制度の現状と展望」, 統計調査委員会：「WADDA システムを用いた臨床研究の勧め」, 統計調査委員会：「JRDR エビデンスに基づいた臨床パターンの提案」, 学術委員会：「Dialysis therapy, Year in review 2019」, 危機管理委員会：「透析災害対策のアップデート」, 総務委員会：「日本腎代替療法医療専門職推進協会の創設に向けて」, 学術委員会 (血液浄化に関する新技術検討小委員会)：「血液浄化の新技術～人生 100 年時代に向けての展開～」, 学術委員会 (透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経管栄養に関する提言検討委員会)：「維持透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経腸栄養に関する提言」

<その他>

感染講習会：「透析患者の治療—感染症」

医療倫理講習会：「臨床研究をやってみよう 臨床研究法下における臨床試験の推進のため」

医療安全講習会：「患者安全～標準医療事故調査手法について～」

日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会

第65回通常総会開催：2020年6月11日（木）16：00～東京都文京区湯島1-7-5 東京ガーデンパレス3階白鳳において、開催した。定款第30条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第28条ただし書きの規定に基づき、第65回日本透析医学会学術集会・総会会長が新型コロナウイルス感染拡大の影響により出席できないため、特別な事情とみなし、土谷 健評議員が議長に選出され、議長を務めた。

各常置委員会から資料に基づき、2019年度事業報告および2020年度事業計画の報告があり承認された。一般社団法人日本透析医学会定款の一部改正について説明があり承認された。一般社団法人日本透析医学会定款施行細則の一部改正について説明があり承認された。2019年度貸借対照表および正味財産増減計算書等、監事による監査報告があり承認された。定款施行細則第2条第2項に基づき、名誉会員として安藤亮一先生、稲葉雅章先生、仲谷達也先生、藤元昭一先生、峰島三千男先生、八木澤隆先生が理事会で承認され、本総会に推薦され承認された。令和5年度第68回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として大分大学医学部附属病院診療教授 友 雅司先生が理事会で選任され、本総会で承認された。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2020年5月29日（金）（WEB開催）・12月4日（金）（WEB開催）

2021年3月27日（土）

(2) 監事による監査会開催：2020年5月13日（水）

4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会（阿部雅紀委員長）

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。また、会員専用ページ MyWeb の開設に際し、「会員管理システム利用規程」の整備を図った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（満生浩司委員長）

「日本腎代替療法専門職推進協会」の設立に向けて、「一般社団法人日本腎代替療法専門職協会定款」が各関連学会に了承され、設立時役員（代表理事・理事・監事）の候補者が決定され、代表理事および理事・監事の就任承諾書を作成し、2021年1月に法人登記を行った。

(3) 感染調査小委員会（竜崎崇和委員長）

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応する。また、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」の改訂に協力し、2020年4月30日に5訂版として発刊された。2020年6月11日の通常総会にて常置委員会として感染対策委員会の設立が承認され、8月20日からその活動が開始されたため、本小委員会は解散となった。

(4) 統計調査のあり方小委員会（中元秀友委員長）

統計調査のあり方について検討していくこととしたが、本年度は該当がなかった。

(5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

- ① 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会（大阪市～WEB 開催）における国際交流委員会企画に協賛し、本小委員会のこれまでの活動について報告した。
- ② 2020 年度の研修プログラムは同年 10 月に実施し、研修生には横浜市で開催される国際血液浄化学会（中止）にも出席してもらう予定であったが、コロナ禍の影響を受けてこれを中止した。
- ③ コロナ禍の中における研修プログラムを、当面、休止することとした。

(6) 本学会のあり方小委員会（中元秀友委員長）

- ① 公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。

(7) e-ラーニング検討小委員会（久野 勉委員長）

- ① 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページ MyWeb にアップし、専門医は単位取得できるようにした。
また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
- ② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。
- ③ 単位の認定に関しては、出題された 5 問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に戻り繰り返し視聴できるようにした。

(8) 病気腎移植に関する検討小委員会

2017 年 10 月 29 日病気腎移植（修復腎移植）が先進医療 B として厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の 5 学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を 2018 年度に行った。その後の 2020 年度の進捗であるが、現在まで先進医療 B 症例は、当該医療機関から申請されていない。

なお、2021 年 1 月に申請医療機関からの進捗状況が報告されたが、未申請の状況には変化ない。

(9) 会員管理システム業者選定小委員会

納品のあった新規会員管理システムを 2 月に検収し、稼働が確認されたため休会とした。

(10) 書籍発行運営委員会（重松 隆委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討していくこととしていたが、本年度は該当がなかった。

6) 学会との連携、協力関係

- (1) 日本医学会、(2) 日本医学会連合、(3) 日本医師会、(4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、(5) 透析療法合同委員会、(6) 内科系学会社会保険連合、(7) 外科系学会社会保険連合、(8) 臓器移植関連学会協議会、(9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成、(10) 糖尿病性腎症合同委員会、(11) 登録腎生検予後調査検討委員会、(12) 先行的献腎移植申請検査会、(13) 透析医療に関するグランドデザイン、(14) 日本透析医会との連絡協議会、(15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

2. 財務委員会

2020 年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、2021 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行した。
- (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行した。ただし、郵送は希望者のみに限定した。
- (3) 年間1～2回を目安として特集号を組む予定であったが、残念ながら実現できなかった。
- (4) JSDT Position Paperとして、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を2020年度和文誌53巻4号に掲載した。
- (5) 日本透析医学会男女共同参画推進委員会 TSUBASA PROJECTに基づく4論文を、2020年度和文誌53巻9号に掲載した。
- (6) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2020年度和文誌53巻12号に掲載した。

2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

- (1) 公式欧文誌からの離脱を、国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と出版社であるWiley社に伝達し、離脱契約を締結した。2021年末をもってTAD誌は公式雑誌ではなくなる。ただし、TAD誌は引き続きWiley社により出版継続される予定である。

3) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続きWeb JournalとしてOpen Journalの形式で、CC-BYの著作権で引き続き発行した。
- (2) Google Scholar並びにDOAJ, Scopus, ProQuest, EBSCO, NAVERなどでのIndex化が完了した。この結果、近い将来SJR (Acimago Journal & Contry Rank) リストに登場予定である。
- (3) すでにPubMed CentralでのIndex化の再申請を2020年中に行った。現在審査結果待ちの状況である。
- (4) 他の検索システムMEDLINE, Science ESCI, web ScienceへのIndex化申請を2020年中に行った。現在審査結果待ちの状況である。
- (5) RRT誌が日本腎不全看護学会, 日本腎臓薬物療法学会, 日本小児腎不全学会の公式英文誌として採用された。
- (6) 2020年度(2020年4月～2021年2月までの中間集計)では、93編の論文投稿があった。以上より目標の年間論文投稿数100は達成できそうである。
- (7) 2020年(2020年1月～2020年12月までの集計)では、論文採択率は69.9%と初めて70%を切った。
- (8) 2020年(2020年1月～2020年12月までの集計)では、我が国を含む世界16カ国からの投稿があった。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

令和2年度の学会賞は次の2編であり、11月2日の第65回日本透析医学会学術集会・総会で講演した。(敬称略)
菊地 勘

Predilution online hemodiafiltration is associated with improved survival compared with hemodialysis.
Kidney International 2019 ; 95(4) : 929-38.

岡 英明 松山赤十字病院 腎センター

Better Oral Hygiene Habits Are Associated With a Lower Incidence of Peritoneal Dialysis - Related Peritonitis.

Therapeutic Apheresis and Dialysis 2019 ; 23(2) : 187-94.

<奨励賞>

令和2年度の奨励賞は次の1編であり、11月2日の第65回日本透析医学会学術集会・総会で講演した。(敬称略)

村上佳弥

Squared frequency-Kt/V : a new index of hemodialysis adequacy-correlation with solute concentrations by computer simulation.

Renal Replacement Therapy 2019 ; 5 : 8.

2) 学術委員会活動 (ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動) 等に関する協議

(1) 学術委員会の会合を定期的に開催し, 関連小委員会と共同して学術活動に関して協議を行った.

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを, 学術委員会主体で行うこととし, 統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムを立ち上げたが, この活動を進める.

4) 栄養問題検討ワーキンググループ (菅野義彦委員長)

2019年度までに行った透析患者の低栄養評価を受けて, 第65回日本透析医学会学術集会・総会では低栄養患者に対する介入に関する議論を行った.

5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ (伊藤恭彦グループ長)

2019年11月にJSDTブックシリーズ1として出版した『腹膜透析ガイドライン2019』のPart1, Part2をそれぞれ英文化し, RRTに投稿した. Clinical Question (CQ) に対して行ったSystematic Review 6課題につき, それぞれの結果をRRTに論文化した.

6) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会 (小岩文彦委員長)

2015年から開催しているDialysis Therapy, 2019 year in reviewを第65回日本透析医学会学術集会・総会(令和2年11月)において委員会企画として開催した.

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO対策ワーキンググループ合同委員会 (友 雅司委員長)

ヘモダイアフィルタの機能分類に必要となるフィルタの性能評価法について, 牛全血系ならびに牛血漿系について検討した.

<透析排水管理ワーキンググループ> (峰島三千男ワーキンググループ長)

日本透析医会, 日本臨床工学技士会との3団体共同「透析排水管理ワーキンググループ」を通じ, 透析排水の適正管理について検討し, 会員へ向け啓発活動を展開した.

<頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ> (峰島三千男ワーキンググループ長)

議論してきた内容を学会誌(透析会誌2019;59(9):497-531)に委員会報告し, 活動を終了した.

<ISO/IEC対策ワーキンググループ> (川西秀樹ワーキンググループ長)

ISO会議と連携し, 日本の見解を反映させた. 今後, IEC(International Electrotechnical Commission)においても透析関連の討議がなされることにより, ISO・IECの両者に対応するため委員会名を変更した.

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

① 第65回日本透析医学会学術集会・総会(令和2年11月)において, 本小委員会で議論した成果を, 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「血液浄化の新技術~人生100年時代に向けての展開~」にて発表した. オンデマンド型の開催であったため, 発表の反響を推し量ることはできないが, 各委員の研究の進捗は順調であることは十分に確認できた.

② コロナ禍でありながら, 昨年度から始まった委員間のコラボレーション(シミュレーションと細胞系の実験)についても進捗があり, その一部は上述の第65回日本透析医学会学術集会・総会でも紹介された.

③ 血液浄化法の新しい可能性を志向する他の研究会において, 本小委員会の成果をベースにした特別セッションを計画していたが, コロナ禍の影響で研究会は中止となり, 実現できなかった.

- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）
- ① 体験参加型セッションの開催
 - ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催の2つを計画したが、COVID-19の影響で開催には至らなかった。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）
- コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。今年度は以下の3名への助成が決定した。（敬称略）
- ① 人見泰正
「シャント狭窄病変の形態学的な差異が治療介入への検査基準に与える影響」
 - ② 栗原佳孝
「分子量3万領域の新規マーカ物質を用いたヘモダイアフィルタのin vitro性能評価」
 - ③ 三嶽侑哉
「透析後からの時間経過を考慮した、透析治療間の運動処方に関する研究：有酸素運動中の末梢循環応答の違いによる検討」
- (6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）
- 透析および関連領域における用語の統一性を確立することで会員の知識および学術的な記載（論文、学術発表など）に普遍性を持たせる目的で透析医学用語集が平成19年に作成されたが、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とした。日本腎臓学会との連携を確認し、改訂作業に入った。
- (7) 透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経腸栄養に関する提言検討委員会（猪阪善隆委員長）
- 2020年度和文誌53巻7号に提言を報告し、委員会活動を終了した。

5. 統計調査委員会

- 1) 2019年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告
- (1) 「わが国の慢性透析療法の現況（2019年12月31日現在）」を日本透析医学会雑誌53巻12号に掲載した。
 - (2) CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況（2019年12月31日現在）」を施設会員と調査協力非会員施設に送付した。
 - (3) 上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。
 - (4) 上記現況報告のPDFファイル、PPTファイルを学会ホームページに掲載した。
 - (5) 2019年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム（自動集計、研究データ切出し）に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム（自動集計）の2019年版を公開した。
- 2) 「わが国の慢性透析療法の現況（2018年12月31日現在）」をAnnual Dialysis Data Report 2018, JSDT Renal Data Registry (JRDR)として、下記分割投稿した。
- (1) 施設・患者動態 RRT誌（2020）5：53, DOI/10.1186/s41100-019-0248-1
 - (2) 水質・HDF/PD/DM RRT誌（2020）6：51, DOI/10.1186/s41100-020-00290-z
 - (3) 認知症・ADL 投稿中
 - (4) 肝炎 投稿中
- 3) 2020年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
- (1) 2020年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。
- 4) WADDAシステムの活用推進と精度管理
- (1) WADDAシステムの年次取込みデータ作成を現況調査委託業者に外注した。
 - (2) 学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステムの2008～2015年版を公開した。

(3) WADDA システム 2008～2015 年版の公開準備を進める中で、「わが国の慢性透析療法の現況」2012～2015 年の CD-ROM 版は、浮動小数点等の扱いで集計に誤りがあった事が判明した。そこで、集計表を再作成し学会ホームページの会員専用ページで公開しているデータを差し替えた。

5) 統計調査のデータベース作成の改善

- (1) 統計調査データベース作成の際の名寄せ処理システムを一部改善した。
- (2) 統計調査データベース作成の際の事務局作業を一部自動化した。
- (3) 統計調査データベースの構造を一部改修し、保存する内容を一部追加した。

6) 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

「統計調査委員会 JRDR エビデンスに基づいた臨床パターンの提案」

- (1) 「JRDR エビデンスに基づいた臨床パターンの提案」
- (2) 「WADDA システムを用いた臨床研究の勧め」
- (3) 「コメディカルのための臨床研究入門」

7) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文文化

- (1) 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析、論文文化を解析小委員会中心に行った。
- (2) 2020 年は JRDR を用いた研究結果 英文 11 編、和文 2 編が掲載された。

8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実

- (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。

9) 国内・国際協力の推進

- (1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対するデータ提供は、例年通り行った。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし、解析を進めた。
- (2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2020 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 2020 年 9 月 30 日に開催された日本専門医機構認定のサブスペシャリティ領域新専門医制度の説明会において、サブスペシャリティ領域の申請を行う基本領域が占める割合によるカテゴリー分類が提示された。透析専門医に占める総合内科専門医の割合は約 73% であり、カテゴリー A に分類されるため、日本内科学会に申請を行った（総合内科専門医約 73%、泌尿器科専門医約 16%、外科専門医約 5%、小児科専門医約 1%、麻酔科指導医約 0.2%、救急専門医約 0.1%）。また、透析専門医の基本領域として、総合診療専門医を追加したいことを日本専門医機構に連絡した。日本内科学会から、基本領域として約 16% を占める日本泌尿器科学会と関連サブスペシャリティ領域として日本腎臓学会について記載するように依頼があり、それぞれの学会に記載内容の提出を依頼した。その後、日本泌尿器科学会から回答が送られたが、日本腎臓学会からは回答しないと連絡があった。
- (2) 透析専門医は、基本領域専門医として患者の全身状態を診療でき、透析医療と関連が深い横断的 6 領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）を目指すことになり、理事会承認後、日本内科学会に申請の修正を行った。日本内科学会から、12 月 25 日に「日本内科学会内に設置した内科サブスペシャリティ審議協議会の審査協議の結果、透析専門医（内科領域カテゴリー A）の日本専門医機構の新規内科サブスペシャリティ領域としての今回は推薦を見送りま

- した。」との回答があったが、今後、日本内科学会と研修カリキュラムの見直しを行うとの連絡があった。
- (3) 日本内科学会から、2月4日に日本腎臓学会と透析専門医についての打ち合わせがあると連絡があった。日本腎臓学会は、「透析専門医は必要であるが、腎臓専門医を取得後の補完研修で、重複する部分があるので、透析専門医の研修期間を短くするのがよい。」と申し出があった。日本透析医学会は、「透析患者を長期間診療し、さまざまな合併症、感染対策、災害対策、安全対策などを行う透析専門医は、6つの基本領域のサブスペシャリティ領域専門医で、研修カリキュラムや学術集会プログラムが異なる腎臓専門医の補完研修ではなく、サブスペシャリティ領域の通常研修が適切と考えている。」ことと「厚生労働省は、透析医と腎臓内科医の業務は異なると明確に国会で答弁しており、その業務は分けるべきと考えている。」ことを伝えた。日本内科学会は、「透析専門医は必要であるが、現在の機構のルールおよび今までの話し合いを考えると、これ以上サブスペシャリティ領域は増やせない。なお、複数の科がある場合、同じカリキュラムと試験が必要になります。」と述べたので、日本透析医学会は、「すでに透析専門医は複数の基本領域専門医があり、どの専門医も同じ透析専門医カリキュラムで研修を行い、同一の試験を受験しており、さらに口頭試験も行っています。」と返答し、機構のルールの問題点を指摘した。日本内科学会は、「透析専門医のことで知らなかったこともあり、今後、日本透析医学会と日本腎臓学会が話し合い、合意してください。」と述べ、会は終了した。多くの会員は、2020年9月30日以降の経過を知らないため、第66回日本透析医学会学術集会・総会において議論し、会員に周知して意見を聞き、その後日本腎臓学会と話し合うことがよいと考え、会長特別企画「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」を企画して、打ち合わせに参加した日本内科学会と日本腎臓学会の関係者と透析専門医に関連するその他の学会専門医に演者を依頼した。日本内科学会の関係者から否の返事があり、日本専門医機構に制度説明の演者推薦を依頼した。また、日本腎臓学会の関係者からも否の返事があり、理事長宛に演者推薦を依頼した。
- (4) 毎年、申請者が業績についての誤認識があり、専門医制度規則・規則施行細則をわかりやすい内容に改正した。診療実績の提出を、維持透析症例（少なくとも血液透析1例および腹膜透析1例を含む）、慢性腎不全透析導入症例（少なくとも血液透析1例を含む）、バスキュラーアクセスカテーテル留置症例とし、腹膜透析症例の診療実績提出数を多くすることと長期留置型カテーテル症例も可能とした。論文業績で、Therapeutic Apheresis and Dialysis 誌は、2021年12月末までに発刊されたものに限るとした。指導医の申請資格としての学会発表を、論文筆頭著者での代用を可とした。
- (5) 地方学術集会を2021年度より北九州と南九州を統合して、10地区とする規則施行細則を改正した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止・延期したプログラムについて、延期の場合には、2020年度として単位を認めることにした。
- (6) 全国規模学術集会・地方学術集会の認定継続は、一度認定されると自動的に継続としていたが、適切な学術集会の運営がなされていることを確認することに変更した。その認定継続について、毎年8月までに、前年度プログラム、収支報告書、議事録を提出し、審議の結果、継続不可と決定された場合には翌年の4月から取り消す認定取り消しについての記載を追加した。
- (7) 2020年度専門医認定試験
- ・ COVID-19の流行により、「本学会の都合により、2021年度に実施しても2021年4月からの専門医の期間としてみなす」規定が理事会で承認され、2020年10月に実施予定の第31回専門医認定試験を2021年4月25日に延期し、試験申請期間を2020年8月31日までに延長した。なお、緊急事態宣言が出された場合は、公的な理由により延期する。2会場のうち1会場あるいは両会場とも公的な理由により延期した場合には、学会の責任において2020年度試験を2021年度内に機会を設けて実施する義務が生ずる。なお、試験問題作成の面から、その場合には、2021年度の受験者と同一日に2会場で実施する。合格者の認定期間は、2020年度申請者は2021年4月1日、2021年度申請者は2022年4月からとする。
 - ・ 感染対策、経費、人的要素の面から2会場（東京、大阪）で実施し、受験者の会場は原則地域で決める。

両会場とも実施できないことを回避するため、試験監督と受験者の東西を同じとするが、試験監督と受験生の県が同じまたは近くならないように配慮する。試験官が出張を禁じられる可能性もあり、受験機会均等の原則を厳守し、試験官はリザーブも配置し、2名（内科系、外科系）で行う。口頭試験官が2名のため、従来の口頭試験と重みづけが変わってくる可能性があるが、減点方式であり、総合点は標準偏差を用いるため、今まで同様の判断基準で行うこととなった。

・4月25日専門医認定試験に係る感染対策について

【受験生】

- ① 試験日前2週間の質問票：集団感染を起こしやすい複数の変異型株が出現しており、感染および感染の疑いの者は受験不可とする（事前に受験者に通知）。
試験日（4月25日）前2週間の質問票（所属長の出張許可、体温、体調、濃厚接触の有無、ワクチン接種の有無など）の提出の義務付け。
- ② 試験日当日の対応
 - 1) 質問票の内容確認
 - 2) 入室前の手指消毒、検温（当日の検温で37.5度以上の発熱があった場合は、受験不可）
 - 3) マスク着用の義務化
- ③ 新型コロナウイルスのため受験できなかった者の対応
 - 1) 検温等で受験を辞退した者、質問票により受験させなかった者は10月の受験を認める。
 - 2) マスクの着用を拒むなどの者は、10月の受験は認めない。
- ④ 試験日の昼食
会話の禁止

【試験監督等】

- ① 試験会場
 - 1) 本部要員等は、試験会場ではマスクを着用する。
 - 2) 説明者用にアクリル等の遮蔽板を用意する。
 - 3) 質問票の確認者と体温の測定者にフェイスシールドを用意する。
 - 4) 質問があった場合に備え、試験監督官にフェイスシールドを用意する。
 - ② 口頭試問会場
口頭試問官用にそれぞれアクリル等の遮蔽板を用意する。
- (8) 2020年度は、専門医、指導医の資格認定申請を予定者に対し、COVID-19の流行のため緩和措置を実施したが、2021年度への緩和措置は実施しないことになり、学会ホームページおよび会告で通知した。しかし、2021年度も引き続き、WEB配信による単位取得を認めることとなった。
- 2) 研修プログラム小委員会
 - (1) 基本領域専門医および腎臓専門医との連動研修がなく、カリキュラム制とした専門研修プログラム第3版の改訂に向けた準備を開始した。
 - 3) カリキュラム小委員会
 - (1) カリキュラム大項目として腎代替療法選択、小項目として、ファブリー病、下水道管理などについて追加した専門研修カリキュラム第3版、専門研修指導マニュアル第4版、専門研修トレーニング問題解説集第4版を作製した。また、基本領域専門医と連携し、カリキュラムの見直しの検討も開始した。
 - (2) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医・指導医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医・指導医には一定の研修単位（5単位）を認定した。なお、専門医更新・指導医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1

日～5月31日迄（消印有効）で実施し問題・正解・解説は8号に掲載した。

(3) 提出されたe-ラーニング問題のブラッシュアップを実施した。

(4) 腎代替療法選択などの追加が必要であり、専門研修カリキュラムなどの改訂を実施することになった。

4) 専門医認定小委員会

(1) 2020年から、症例要約18例のうち2症例外来症例を可としたので、2021年度より症例要約のフォーマットに外来症例・入院症例の欄を追加した。なお、外来症例の場合には、関与した部分ができるカルテコピーなどをつけ、要約中に関与した部分を示すこととした。

(2) 専門医認定制度に係る諸問題検討ワーキンググループで、専門医制度規則、規則施行細則、症例要約集の改訂、専門医の必要数と地域偏在・施設偏在の解消に関する施策を検討した。専門医制度規則・規則施行細則を改正し、症例要約集を2021年7月上旬までに改訂し、ホームページにアップすることになった。専門医数が少ない地域の基幹病院に今後調査を行い、偏在を解消する方策を個別に検討する必要がある。

5) 専門医試験小委員会

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して、試験日を2020年10月18日から2021年4月25日に延期し、申請期間を2020年6月1日から8月31日に延期し、会場は関東地区と関西地区の2会場で実施予定とした。2020年6月に開催予定であった第65回日本透析医学会学術集会・総会に参加し受験資格を満たす予定であった申請者は、2020年11月開催の第65回WEBによる学術集会に参加し単位等を取得することを条件として受験申請を認めた。専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口答試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定する予定である。合格承認を得られた申請者は、専門医制度規則・施行細則を改正し、2021年4月1日～2022年3月の間は、専門医として認定されたものとみなす期間とした。

(2) 優良な試験問題を正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、すべてのプール問題の見直しを実施し、約700題を管理している。

(3) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。

(4) 不正防止のため、教育責任者への確認と入院症例要約のサンプリングを継続した。

6) 施設認定小委員会

(1) 機構専門医制度にいつでも対処可能なように専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成に努めた。

7) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記の通りである。

【2020年度 第31回専門医認定】

申請受付会告 2020年3号～7号

申請書類受付 2020年6月1日～8月31日

申請者数 311名

書類審査不適格者数 6名

サマリー失格 1名

申請取り下げ・辞退 1名

専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）2021年4月25日

試験会場 都市センターホテル

客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数 名

客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数 名

客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数 名
 客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数 名（筆答・口頭試験 合格率 %）
 適格者数 名/ 名（ %）

【認定期限 2021 年 3 月 31 日までの専門医更新総数】

更新対象者数 1,349 名
 更新申請者数 1,318 名
 更新適格者数 1,317 名
 更新申請受付会告 2020 年 9 号～ 10 号
 更新申請書類受付 2020 年 11 月 1 日～ 11 月 30 日

【2020 年度 第 31 回指導医認定】

申請受付会告 2020 年 10 号～ 12 号
 申請書類受付 2021 年 1 月 6 日～ 1 月 31 日
 申請者数 105 名
 適格者数 96 名

【認定期限 2021 年 3 月 31 日までの指導医更新総数】

更新対象者数 468 名
 更新申請者数 446 名
 更新適格者数 446 名
 更新申請受付会告 2020 年 10 号～ 11 号
 更新申請書類受付 2020 年 12 月 1 日～ 12 月 31 日

【第 30 回認定施設・教育関連施設認定】

申請受付会告 2020 年 4 号～ 6 号
 申請書類受付 2020 年 7 月 15 日～ 8 月 15 日
 申請施設 認定施設 18 施設
 教育関連施設 51 施設
 適格施設 認定施設 18 施設（100%）
 教育関連施設 51 施設（100%）

【認定期限 2021 年 3 月 31 日までの認定施設更新総数】

更新申請受付会告 2020 年 4 号～ 6 号
 更新申請書類受付 2020 年 7 月 15 日～ 8 月 15 日
 更新対象施設数 198 施設
 認定施設 81 施設
 教育関連施設 117 施設
 更新申請施設数 178 施設
 認定施設 75 施設
 教育関連施設 103 施設
 更新適格施設数 178 施設
 認定施設 75 施設

教育関連施設 103 施設

【各小委員会の認定状況（2021年4月1日現在で記載）】

専門医数	5,950名	※休会者・保留者含む
		2020年度第31回専門医新規は含まず
指導者数	2,177名	※休会者・保留者含む
施設認定数	計1,188施設	
認定施設数	484施設	
教育関連施設数	704施設	

7. 国際学術交流委員会

1) 第65回日本透析医学会学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行う予定としていたが、新型コロナウイルス感染の影響で海外からの招聘講演・シンポジウムは中止とした。

I. 招請講演

- (1) Charles A Herzog, University of Minnesota, Hennepin County Medical Center (USA) “Treatment of atrial fibrillation in dialysis patients”
- (2) Prof. Sydney Tang, Chairman of APCN, University of Hong Kong, “The risk of stroke in CKD and dialysis patients”

II. シンポジウム

- (1) シンポジウム1 “The Status of Renal Replacement Therapy in Non-Western Countries”
 - ① Prof. Willy Randriamarotia (Madagascar)
 - ② Prof. Magdalena Madero (Mexico)
 - ③ Prof. Mustafa Archi (TURKEY)
 - ④ Prof. Rob Walker (New Zealand)
- (2) シンポジウム2 “Selection of renal replacement therapy in each country ; Policy and Practice in each country”
 - ① Prof. Sydney Tang (Hong Kong)
 - ② Prof. Dusit Lumlertgul (Thai)
 - ③ Prof. Torres (Europe)
 - ④ Prof. Saran Rajiv (USA)
 - ⑤ Prof. Ken Sakai (Japan)

III. シンポジウム（統計調査委員会との共同企画）

IV. 一般講演 Free Communications

例年通り、公募を行ったが、上記と同様海外からの講演は中止とした。

V. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間中にFarewell partyの開催を予定したが、中止とした。

VI. Travel Grant 等

今回は招聘や海外からの講演を中止としたため、Travel Grant等の支出はなかった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送る予定である。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため、2020年度は選出を行わなかった。ただし、第6回評議員選挙から開票立会人若干名に法律の専門家を加えることおよび選挙の透明性を図るため選挙結果を公表することに関する評議員選出規則の改正について、令和2年7月9日付け開催のメール理事会において、評議員選出規則第15条ただし書きとして、「開票立会人のうち1名は法律の専門家を含まなければならない」こと、および第21条に「また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率をいう。）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示しなければならない。」ことの規定を追加する規則改正（案）を審議し、令和2年7月19日をもって承認された。

また、「第5回日本透析医学会評議員選挙には効力が無い」との申出に関する件について、令和2年6月25日WEB開催の評議員選出委員会において審議し、全会一致で本申出を「棄却する」と決議され、また、本申出に対する回答書（案）について審議し、全会一致で承認され、理事会に諮ることとなり、令和2年7月9日付け開催のメール理事会において審議し令和2年7月19日をもって承認され、本回答書をもって異議申立人宛に回答した。

9. 保険委員会

1) 2021年第66回日本透析医学会学術集会・総会の保険委員会企画を討議し、「2022年度診療報酬改定に望む」と題して下記の項目での討議を計画した。

- ① 診療報酬改定とは
- ② 2022年透析診療報酬改定の課題
- ③ バスキュラーアクセス日常管理加算
- ④ 透析用カテーテル留置術
- ⑤ どうなる導入期加算
- ⑥ 保険委員会の取組み

2) 外保連に対しての活動：下記①②の透析用カテーテル留置術は診療報酬上は注射の区分（Gコード）に属しており、DPC病院では請求できていなかった。その点を改変すべく学会として、長期留置カテーテルと短期留置カテーテルのタイムスタディーを施行し日本透析医学会誌に報告（54巻2号、2021年2月28日発行、P57-60）、外保連から厚生労働省に申請し、手術区分（Kコード）に再分類されDPC病院でも請求可能になるよう3月30日に下記の医療技術評価提案書を外保連に提出した。なお、タイムスタディーなどの追加調査も必要とあれば実行予定。

- ① 経皮的体外循環補助装置設置術（短期型）
- ② 経皮的体外循環補助装置設置術（カフ型）

3) 内保連に対しての活動：2020年度改定では取り上げられなかった。下記4項目については重要であるため2022年度改定でも内保連に提案し、認められるようにするために活動を継続した。

- ① 血液透析アクセス日常管理加算
- ② 在宅血液透析管理加算（多職種による）
- ③ 在宅透析患者管理における遠隔管理加算
- ④ 透析患者導入期と転入期のHIV抗体検査

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 「透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する調査」の倫理審査について審議し承認した。
- (3) 「透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する調査」に伴う COVID-19 症例集積解析の倫理審査について審議し承認した。
- (4) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査 5 件（うち他団体との共同研究 2 件）について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった 5 件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第 4 条関係）
12 件申請があり、11 件を承認し、1 件申請取り下げがあった。
- (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第 8 条関係）
本件の申請はなかった。

11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では、改訂された政府の腎疾患対策検討会の報告書において、CKD 発症予防、重症化予防だけでなく、透析・移植患者の QOL の改善も目標として加わったことに鑑み、地域医療や療法選択に関する調査研究を複数始めてきた。今年度は、腎代替療法治療選択そのものに関する内容が当学会の別部署の活動に移ることと、コロナ禍で対面の事業が当分困難になることを考慮して、療法選択の実際に関する新たな観点からの調査研究の開始は断念し、すでに準備完了したプロジェクトを進行させた。また、ハイブリッドで行われた学術大会において、「高齢者腎不全対策に関するシンポジウム」を委員会企画として開催した。

1) 地域における末期腎不全医療の現状と取り組み

CKD 患者において、その進展予防と高齢化が注目されており、専門医の少ない地方においては特に重大な問題となっている。各地方における末期腎不全医療の現状を把握するために、これまで調査を行った専門医の少ない地域とは対照的な、自治体とタイアップし CKD 対策が進んでいる山梨県、熊本県を対象として準備を進めた。しかし、地域の担当者の異動などにより、具体的に進行させることは出来なかった。

2) 透析患者の QOL に関する包括的検討

透析患者の QOL 向上のための基盤整備のための基礎資料を収集することを目的に、医師と患者を対象にした意識調査を実施した。両者の間の意識乖離の有無を確認することで、QOL 向上のための具体的検討事項を整理した。すでにアンケートの回収が終了し、データの整理をし、解析する準備が整っている。

3) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況

糖尿病性腎症からの新規透析導入患者数が第 1 位であり、透析の臨床において、糖尿病合併患者が増加している。2013 年、日本透析医学会から「糖尿病血液透析患者の治療ガイド 2012」が発刊された。その中には随時（透析開始前）血糖値の目標値として 180～200 mg/dL 未満が推奨され、中～長期的な指標として HbA1c ではなく GA を用い、20% 未満にコントロール（心血管イベントの既往のある場合や低血糖を起しやすいう場合は 24% 未満）することが推奨されている。保存期糖尿病合併 CKD 患者の場合、糖尿病医と連携して血糖コントロールが行われていることは多いが、透析領域では糖尿病合併症例が増加しており、血糖管理を全

て糖尿病医に委ねるのは困難な現状である。そこで、糖尿病透析患者の血糖管理状況を把握する目的で、「誰（透析医 or 糖尿病医？）が何を指標（随時 or 空腹時？, HbA1c or GA？）にどう管理しているのか（糖尿病治療薬の種類とコントロール状況）に関する実態調査を行うこととし、アンケートの内容の確定、送付まで進行した。

4) 高齢者腎不全対策に関するシンポジウム

2020年度の第65回日本透析医学会学術集会・総会において、高齢者腎不全対策「高齢者腎不全医療の現在と未来」をシンポジウムとして企画した。高齢者腎不全対策シンポジウムは、日本腎臓学会から柏原理事長、岡田浩一先生、日本腎不全看護学会からは内田明子氏、日本在宅医療連合会からは三浦久幸先生に依頼し、高齢者腎不全医療におけるSDM ACP、予後調査、アンケート調査、在宅医療についてお話しいただいた。また、委員の酒井が高齢者透析導入の実態、委員長の深川が今後の高齢者腎不全医療はどこに向かうか、について講演した。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

(1) 第65回日本透析医学会学術集会・総会（2020年11月2日～24日、WEB開催）において、災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「透析災害対策のアップデート」

司会：山川智之、鶴屋和彦

① 赤塚東司雄（赤塚クリニック）透析災害対策の新たな方向性

② 佐久間宏治（さとうクリニック）台風15号による千葉県下透析施設の被害とその対応

③ 花房規男（東京女子医科大学）東京都における大規模水害の想定とその対策

④ 山川智之（仁真会白鷺病院）火山災害と透析医療

⑤ 川崎路浩（神奈川工科大学臨床工学科）Tokyo DIEMAS（緊急時透析情報共有マッピングシステム）の運用と課題

⑥ 雨宮守正（さいたま赤十字病院）災害時における電子カルテ、患者情報の管理について

(2) 第66回日本透析医学会学術集会・総会（2021年6月4日～6日、パシフィコ横浜）において、「Withコロナ時代の災害対策」をテーマとした災害に関する危機管理委員会企画を計画した。

(3) 豪雨の影響による被災者および被災施設への支援について

令和2年7月の熊本南部の豪雨の影響による被災者および被災施設へ以下の支援を行った。

① 被災地から患者さまを搬送することについて経費等の支援事業

② 上記1)に付随する事業

③ 被災された会員の会費の支払期限の延期と会費の免除措置についての事業

④ 被災された地方の研究会等の資金支援についての事業

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

(1) 第65回日本透析医学会学術集会・総会（2020年11月2日～24日、WEB開催）において、医療安全に関する教育講演を行った。

講師：後信（九州大学病院医療安全管理部）、演題名：医療安全の基本と国際的潮流について

(2) 医療事故調査報告制度に協力関体として登録しているが、医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して、事件事例のセンター調査を担当している。本年度は1件の依頼があり、関西ブロッ

クから個別調査部会の部会員1名を派遣した。

(3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行った。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき、会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施した。

- 1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員（理事長、理事、監事）、総会会長、委員会会長、特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他、会員に関連した利益相反状態や、自己申告内容に関する管理を必要に応じて行った。
- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に関する判断マネジメントを行った。
- 6) 取り扱い細則の一部改正につき、諮り、理事会審議を経て、これを議決した。第2条では「スポンサー」、「医学研究」（臨床試験、治験を含む）、「医学研究責任者」などの定義を改め、研究費の具体的明示（治験、産学共同研究、受託研究費、奨学寄付金、寄付講座）を必要として、COI申告書の書式訂正を行った。第6条ではランチョン・イブニングセミナーなどの企業の主催共済においても、COI開示を義務付けた。
- 7) 取り扱い細則の一部改正における第9、第10条：本学会が作成する臨床ガイドラインについては、作成ワーキンググループのメンバー（外部委員を含む）が中立性と公明性をもって作成業務を遂行するために、問題となる利益相反状態の調査を勧告することを盛り込んだ。ガイドラインには「利益相反情報についての開示」に記載を促し、その変動が生じたときには、理事長報告を義務付けた。以上の細則変更はCOI申告書式に反映させた。

なお、これを裏付けるすべての情報は日本透析医学会事務局で保管している。本学会の統計調査に基づく臨床研究についても同様に問題となる利益相反状態の調査を勧告した。

- 8) 海外の招請講演演者、論文筆者にも同様のCOI申請が必要と考え、COI申告書の英文表記版を完成させた。
文献

日本透析医学会：日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針。2011：

<http://www.jsdt.or.jp/jsdt/1370.html>

14. 男女共同参画推進委員会

- 1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を継続していくこととなった。

- 2) 小委員会の活動

- (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会とそれぞれと共同し働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが、継続して検討することとなった。

- (2) 女性医師育成小委員会

第1回「TSUBASA PROJECT」では7名6課題の研究が終了し、日本透析医学会雑誌53巻9号の委員会報告「TSUBASA PROJECT—透析と性」として掲載した。

第3回「TSUBASA PROJECT」は東京女子医科大学東医療センターの西沢蓉子医師と、順天堂大学腎臓内科の野原奈緒医師の2名が研究を進め、研究報告を第65回日本透析医学会学術集会・総会でを行った。

第4回「TSUBASA PROJECT」は7名（住吉川病院の木村稚菜先生，医療法人麻の会首里城下町クリニック第二の新川葉子医師，順天堂大学医学部附属静岡病院の林陽子医師，葉山ハートセンターの福内史子医師，東京女子医科大学東医療センターの山下かおり医師，聖マリアンナ医科大学病院の大迫希代美医師，広島大学の佐藤彩加医師）が研究を進め，研究報告を第65回日本透析医学会学術集会・総会で行った。

第5回「TSUBASA PROJECT」は以下の4名を研究者として選出し，研究を進めている。第66回日本透析医学会学術集会・総会で研究報告を行う予定である。

普久原彩加医師（琉球大学）沖縄県における末期腎不全発生率の性差の動向とその背景因子

土谷千子医師（東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科）腹膜透析における gender の検討

塚田三佐緒医師（東京女子医科大学）慢性維持透析患者における栄養指標と予後，性差による検討

西尾沙織医師（北海道大学病院内科Ⅱ）透析患者の QOL の男女差についての検討

「透析療法領域における男女共同参画実態調査」を総務委員会，専門委制度委員会と合同でアンケート調査を行った。アンケート調査，集計は終了し，第66回日本透析医学会学術集会・総会の男女共同参画推進委員会で報告し，論文化を予定している。

15. 感染対策委員会

- 1) 6月11日開催の第65回通常総会で設置が認められた常置委員会である感染対策委員会委員について，8月14日付け開催及び8月19日付け開催のメール理事会において審議し8月20日をもって承認された。
- 2) 日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会において，透析患者の感染状況の報告を取りまとめ，開示し得る情報や，感染対策などをホームページにて開示している。
- 3) 第66回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画「COVID-19を振り返る」と題して事業計画のように企画した。
- 4) 2021年3月25日に第1回委員会を開催し，腹膜透析（PD）患者では血液透析（HD）患者と比べて，感染率が低いこと，COVID-19に罹患したPD患者20名のうち11名の解析で，死亡率が高い傾向，酸素需要が高いというデータとなったが，転帰が不明の患者を含めて再度解析を3学会合同委員会に提言することを理事会に報告することになった。
- 5) 同日の委員会において，透析患者のCOVID-19の治療法について，アンケートを行うのがよいのではないかという意見が出た。例えば，レムデシビルは透析患者の投与は推奨されていないが，実際には，使用され，特に問題なく治療が来ているという報告もある。透析患者には当初レムデシビルではなく，アビガンが頻用されてきたので，透析患者の治療薬について，色々な施設の実態を調査し，新たな提言を出すよう3学会合同委員会に提言することを理事会に報告することとなった。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	中元秀友	令和2年6月11日～ 令和3年6月3日の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	新田孝作	同	非常勤	なし	
理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	花房規男	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	満生浩司	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	吉田一成	同	非常勤	なし	
同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宍戸寛治	令和2年6月11日～ 令和3年6月3日の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	令和2年6月11日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	安藤孝	同	非常勤	なし	
7	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
8	同	家原典之	同	非常勤	なし	
9	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
10	同	池田直史	同	非常勤	なし	
11	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
12	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
13	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
14	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
15	同	石田真理	同	非常勤	なし	
16	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
17	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
18	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤裕	同	非常勤	なし	
21	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
22	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
23	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
24	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
25	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
26	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
27	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
28	同	内田信一	同	非常勤	なし	
29	同	大島直紀	同	非常勤	なし	
30	同	大田和道	同	非常勤	なし	
31	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
32	同	大矢昌樹	同	非常勤	なし	
33	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
34	同	岡田一義	同	非常勤	なし	
35	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
36	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
37	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	小川 哲也	同	非常勤	なし	
39	同	小川 智也	同	非常勤	なし	
40	同	奥野 仙二	同	非常勤	なし	
41	同	角田 隆俊	同	非常勤	なし	
42	同	風間 順一郎	同	非常勤	なし	
43	同	柏木 哲也	同	非常勤	なし	
44	同	春日 弘毅	同	非常勤	なし	
45	同	金井 英俊	同	非常勤	なし	
46	同	要 伸也	同	非常勤	なし	
47	同	金山 博臣	同	非常勤	なし	
48	同	金田 幸司	同	非常勤	なし	
49	同	上條 祐司	同	非常勤	なし	
50	同	神家 満学	同	非常勤	なし	
51	同	亀井 大悟	同	非常勤	なし	
52	同	川合 徹	同	非常勤	なし	
53	同	菅 政治	同	非常勤	なし	
54	同	神田 英一郎	同	非常勤	なし	
55	同	菅野 義彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊地 勘	同	非常勤	なし	
57	同	菊池 早苗	同	非常勤	なし	
58	同	木田 有利	同	非常勤	なし	
59	同	木全 直樹	同	非常勤	なし	
60	同	木村 朋由	同	非常勤	なし	
61	同	倉賀野 隆裕	同	非常勤	なし	
62	同	小出 滋久	同	非常勤	なし	
63	同	小岩 文彦	同	非常勤	なし	
64	同	合田 朋仁	同	非常勤	なし	
65	同	後藤 順一	同	非常勤	なし	
66	同	後藤 俊介	同	非常勤	なし	
67	同	古波蔵 健太郎	同	非常勤	なし	
68	同	小松 康宏	同	非常勤	なし	
69	同	駒場 大峰	同	非常勤	なし	
70	同	小藪 助成	同	非常勤	なし	
71	同	今 裕史	同	非常勤	なし	
72	同	齋藤 修	同	非常勤	なし	
73	同	斎藤 知栄	同	非常勤	なし	
74	同	齋藤 満	同	非常勤	なし	
75	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
76	同	酒井 行直	同	非常勤	なし	
77	同	坂口 美佳	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
79	同	佐々木 環	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤 真理子	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 祐二	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
86	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
87	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
88	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
89	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
90	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
93	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
98	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
99	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
100	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
101	同	高橋 計行	同	非常勤	なし	
102	同	高橋 直子	同	非常勤	なし	
103	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
104	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
105	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
106	同	竹岡 浩也	同	非常勤	なし	
107	同	竹中 恒夫	同	非常勤	なし	
108	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
109	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
110	同	田中 伸枝	同	非常勤	なし	
111	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
112	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
113	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
114	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
115	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
116	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
117	同	塚田 三佐緒	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	辻本吉広	同	非常勤	なし	
119	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
120	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
121	同	土井研人	同	非常勤	なし	
122	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
123	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
124	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
125	同	友雅司	同	非常勤	なし	
126	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
127	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
128	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
129	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
130	同	仲川嘉紀	同	非常勤	なし	
131	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
132	同	長田太助	同	非常勤	なし	
133	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
134	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
135	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
136	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
137	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
138	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
139	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
140	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
141	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
142	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
143	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
144	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
145	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
146	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
147	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
148	同	新田豊	同	非常勤	なし	
149	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
150	同	野口智永	同	非常勤	なし	
151	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
152	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
153	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
154	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
155	同	服部元史	同	非常勤	なし	
156	同	花房規男	同	非常勤	なし	
157	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	早川和良	同	非常勤	なし	
159	同	林晃正	同	非常勤	なし	
160	同	林秀樹	同	非常勤	なし	
161	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
162	同	原田浩	同	非常勤	なし	
163	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
164	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
165	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
166	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
167	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
168	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
169	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
170	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
171	同	藤森明	同	非常勤	なし	
172	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
173	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
174	同	前田益孝	同	非常勤	なし	
175	同	前野七門	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
178	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
179	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
180	同	松下和通	同	非常勤	なし	
181	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
182	同	松原雄	同	非常勤	なし	
183	同	丸山彰一	同	非常勤	なし	
184	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
185	同	水野正司	同	非常勤	なし	
186	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
187	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
188	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
189	同	水口齐	同	非常勤	なし	
190	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
191	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
192	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
193	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
194	同	向山政志	同	非常勤	なし	
195	同	村上円人	同	非常勤	なし	
196	同	森建文	同	非常勤	なし	
197	同	森下義幸	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	矢島愛治	同	非常勤	なし	
199	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
200	同	山縣邦弘	同	非常勤	なし	
201	同	山川智之	同	非常勤	なし	
202	同	山下明泰	同	非常勤	なし	
203	同	山下芳久	同	非常勤	なし	
204	同	山田保俊	同	非常勤	なし	
205	同	山中正人	同	非常勤	なし	
206	同	山本卓	同	非常勤	なし	
207	同	横地章生	同	非常勤	なし	
208	同	吉田理	同	非常勤	なし	
209	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉本充	同	非常勤	なし	
211	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
212	同	頼建光	同	非常勤	なし	
213	同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	
214	同	脇野修	同	非常勤	なし	
215	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
216	同	和田篤志	同	非常勤	なし	
217	同	和田隆志	同	非常勤	なし	
218	同	和田健彦	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	218名	なし	
合計	241名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2021年3月31日現在	2020年3月31日現在		
正 会 員	13,993	13,951	42	
施設会員	4,140	4,133	7	
賛助会員	62	60	2	
名誉会員	49	43	6	
計	18,244	18,187	57	

③ 職員に関する事項

令和2年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	坂 入 幸 雄	平成30年4月1日	総括管理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和2年5月31日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 日本透析医学会定款施行細則の一部改正に関する件 令和2年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 2019年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 2019年度監事による監査報告に関する件 第65回通常総会開催に関する件 令和2年度（2020年度）専門医認定試験の実施に関する件 SARS-CoV-2 PCR 検査に関する件 その他 	<p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p>
令和2年12月4日 第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 入会・退会に関する件 幹事の推薦に関する件 一般社団法人日本腎代替療法医療専門職推進協会の定款に関する件 第66回学術集会・総会の予算（案）に関する件 第67回学術集会・総会の予算（案）に関する件 第68回学術集会・総会の予算（案）に関する件 第69回（2024年）次次次期会長選出に関する件 2021年度事業計画、概算要求及び2020年度事業報告の作成に関する件 規則等の一部改正 統計調査委員会関係 専門医制度委員会関係 ガイドライン、診療ガイドラインの改訂等に関する件 保険委員会報告「血液透析用カテーテル挿入手技に係る実態調査」について 第5回TSUBASA PROJECT参加者に関する件 第65回（2020年）学術集会・総会に関する件 第66回（2021年）学術集会・総会に関する件 第67回（2022年）学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認</p>

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
	5. 「統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規」の一部改正について 6. 統計調査データの二次利用について 7. 第66回日本透析医学会委員会企画（案） 8. 解析小委員会	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 令和2年11月7日 令和3年3月19日	1. 2020年度認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査結果報告について 2. 専門医制度規則・施行細則の一部改正（案）について 3. サブスペシャリティ領域専門医制度について 4. 全国規模学術集会・地方学術集会の継続審査について 5. 専門研修カリキュラム・プログラム・指導マニュアル・試験問題解説集の改訂について 6. その他 1. 2020年度第31回指導医認定申請審査結果について 2. 認定期限2021年3月31日までの指導医更新申請審査結果について 3. 地方学術集会，生涯教育プログラム，全国規模学術集会について 4. 専門医制度規則施行細則の一部改正について 5. 2021年度セルフトレーニング問題作成について 6. 専門医認定試験感染対策について 7. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・国際学術交流委員会	「該 当 な し」	
・評議員選出委員会 令和2年6月25日	1. 評議員選出規則の一部改正（案）について 2. 「第5回日本透析医学会評議員選挙には効力がない」との申し出に関する件 3. 異議申し立てに関わる回答書（案）に関する件 4. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 令和2年7月29日	1. 令和3年（2021年）度日本透析医学会学術集会の保険委員会企画について 2. 透析用カテーテル留置術タイムスタディー参加施設募集とデータ解析について 3. 令和4年（2022年）度診療報酬改定に向けての準備について 4. 保険対策のワーキンググループ活動について 5. セレン検査の保険申請について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 令和2年4月17日 令和2年9月20日	1. 透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する調査 1. 統計調査に関わる研究計画書の軽微な変更に関する倫理審査について	全会一致で承認 全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和2年11月23日	1. 令和元年度 議事録について 2. 令和2年度 協力学会担当者について 3. 台風及び豪雨による被災者および被災施設への支援について 4. 今後の委員会活動について 5. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会 令和2年10月29日	1. 利益相反指針等の一部改正について 2. 英文の自己申告書について	報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・男女共同参画推進委員会 令和2年11月10日	1. 第5回 TSUBASA PROJECT について	報告・承認
・感染対策委員会 令和3年3月25日	1. COVID-19 禍における在宅透析治療の有用性に関する提案	報告・承認

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 腎臓病臨床経済協議会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理事長	一 部
常任理事	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	副理事長	一 部
		大阪透析研究会	幹 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	一 部
新 田 孝 作	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部	
理 事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
	熊 谷 裕 生	日本循環制御医学会	理 事	関係なし
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフェリシス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本病態栄養学会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
	深 川 雅 史	一般社団法人 日本CKD-MBD研究会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
	満 生 浩 司	一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
森 石 み さ き	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	吉 田 一 成	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
		NPO 法人 いつでもどこでも血液浄化インターナショナル	理 事	一 部
		一般社団法人 日本移植学会	理 事	
監 事	宍 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	専務理事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。